

科目名 (科目番号)	病理学 I (101131)	教員名 坂田 晃子 他	学科等	臨床検査	必修	履修年次	1
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
			オフィスアワー		—	非常勤講師	
授業概要	病理学の総論的な領域に重点を置き、主として先天異常、原因別障害、炎症、腫瘍について把握することにより臨床へのつながりの基礎作りを行う。病気の原因、経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることにより、病気の本態を究明する。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	細胞傷害と細胞増殖 組織、細胞の修復と再生	到達目標:心臓、血管の主な疾患を理解する 学習内容:心臓、血管の主な疾患について学ぶ(筑波大学 坂下信悟)				
	2	循環障害	到達目標:局所/全身の循環障害の病態、循環障害時の臓器の変化や関連現象について、用語やその内容を理解する 学習内容:循環器系のしくみ、生理的機能、役割を確認し、局所/全身の循環障害の病態、循環障害時の臓器の変化、関連して起こる現象を学ぶ(日立総合病院 坂田晃子)				
	3	炎症	到達目標:炎症について、下記内容を理解する 学習目標:生体の防御システムとしての炎症について学び、炎症に関与する3要素、急性炎症と慢性炎症、肉芽腫性炎症や、サイトカインストーム、炎症後の組織修復機構等について学ぶ (筑波大学 矢野陽子)				
	4	免疫機構の異常	到達目標:免疫機構やそれに関与する細胞とその役割を理解し、免疫機構が関与する疾患、免疫機能が失われる疾患を理解する 学習内容:免疫機構について、関与する種々の細胞とその役割、免疫機構が関与する疾患(アレルギーや自己免疫疾患)、免疫機能が失われる疾患や病態を学ぶ (筑波大学 矢野陽子)				
	5	感染症	到達目標:感染症について、下記内容を理解し、感染防御対策を説明できるようにする 学習内容:病原体の種類やそれぞれの代表的な感染症の特徴、生体防御反応、内因性感染と外因性感染、日和見感染、病原体に対する中和抗体と細胞性免疫、病原体の感染経路について学ぶ(松岡亮太)				
	6	腫瘍	到達目標:腫瘍について下記内容を理解する 学習内容:腫瘍の概念と病理形態学的特徴、腫瘍の良・悪性とその鑑別の仕方、悪性腫瘍の発生と進展機構、腫瘍発生の要因と遺伝子異常、腫瘍の病期や分類、病理診断について概要を学習する(松岡亮太)				
	7	遺伝と先天異常	到達目標:染色体・遺伝子の基本的な構造をふまえて、遺伝的異常の原理や代表的な染色体異常症や遺伝性疾患、遺伝子診断法を理解する 学習内容:染色体・遺伝子の基本的な構造、遺伝的異常による先天性異常の原理、代表的な染色体異常症や遺伝性疾患、種々の遺伝子診断法について学ぶ(日立総合病院 坂田晃子)				
	8	代謝異常・老化	到達目標:代謝・老化について下記内容を理解する 学習内容:・代謝異常として石灰等の沈着や、黄疸、代表的なタンパク代謝異常症・脂質代謝異常症、糖代謝異常症の概要を学ぶ ・老化のメカニズムと、老化による生体の変化、老化と疾病の相違、高齢者に多い疾患と老化の関連を学ぶ(日立総合病院 坂田晃子)				
成績評価の方法・基準	試験(100%)						
教科書	シンプル病理学		笹野公伸・岡田保典・安井 弥		南江堂		
参考図書	標準病理学 ロビンス基礎病理学(原書8版)		坂本穆彦・北川昌伸・仁木利郎 Vinay Kumarら、豊國伸哉ら訳		医学書院 丸善出版		
教員からのメッセージ	授業の順番が入れ替わる可能性があります。授業開始時期に通知するので確認してください。						